

文学部創設125年記念企画展
語り出す南洋の造形
慶應大所蔵・小嶺磯吉コレクション



会期：2015年1月9日(金)～2月7日(土)
閉室日：1月10日(土)および日曜・祝日
会場：慶應義塾大学三田キャンパス
図書館1F 展示室 (入場無料)
開室時間：9:00 - 18:20 (土曜 9:00 - 16:50)
主催：慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室
共催：慶應義塾大学文学部, 三田史学会

明治23年(1890)に南洋に旅立ち、貿易商として名を馳せた猛者がいた。名を小嶺磯吉という。長崎堂前の生まれで、トーレス海峡に浮かぶ木曜島の真珠貝潜水漁で頭角を現し、独領ニューギニアに渡ってからは貿易や造船業、コプラ・プランテーションによって財をなした。ニューブリテン島、ニューアイルランド島、アドミラルティ諸島での商売のかたわら、さまざまな造形物を蒐集したことで知られている。慶應義塾が所蔵するメラネシア民族資料の一部は彼に由来する。長きに亘って眠っていた小嶺コレクションが再び目覚め、ここに語り出す。時空を超えたその声に耳を傾けてみよう。

《ギャラリーガイド + 関連シンポジウム》
『モノに響く声, モノが導く対話, 人類学の想像』

日時：2015年1月17日(土) 11:15 - 17:00
場所：図書館展示室 / 東館6F G-SEC Lab

スケジュール
11:15 - 13:15
ギャラリーガイド (図書館展示室)
13:30 - 17:00
シンポジウム (東館 G-SEC Lab)

主催：民族学考古学研究室
共催：日本文化人類学会関東地区
研究懇談会



企画展『語り出す南洋の造形：慶應大所蔵・小嶺磯吉コレクション』記念
一般公開シンポジウム（次世代研究プロジェクト）

《モノに響く声, モノが導く対話, 人類学の想像》

日時：2015年1月17日（土）11:15 - 17:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 図書館展示室／東館6F G-SEC Lab

主催：慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室

共催：文化人類学会関東地区研究懇談会

企画展『語り出す南洋の造形』のギャラリーに入ると、圧倒的な存在感を放つ「珍奇」なモノたちが出迎えてくれます。先ずはその姿形にじっくり向き合ってみてください。皆さまには、どんな心象が芽生えるでしょうか。

もちろん、すべてのモノには由来があります。それを辿ってゆくと、植民地的状況のなかで奇しくも出会った人びとが交差し「声¹が響き合う」なかで、それらが生み出されてきたことに気がきます。小嶺磯吉氏もまた、声を響かせた一人でした。西欧の博物館や美術館に運ばれてからは、訪れた人びとの心を激しく揺さぶり、エミール・ノルデといった若き芸術家たちのあいだに新たな「対話²を導き出し」ました。その経験が既存の枠組みからの逸脱を促し、モダン・アートの流れへと繋がったことも事実です。

モノが今ここにあることを理解するためには、蒐集をめぐる植民地的状況や、西欧アート世界に生じたプリミティビズムの歴史を十分に踏まえる必要があります。しかし、その上で、モノの由来という柵（しがらみ）を乗り越え、「新しい何かを発想する力が私たちにはあるだろうか」、そう問うてもみたいのです。このシンポジウムでは、今ここにあるモノたちから「人類学が想像する」ことを若き研究者の皆さんに自由に語ってもらいます。皆さまにとっても、ギャラリーで浮かんだ心象を振り返りながら、新たな想像をめぐらせる出発点となれば幸いです。

企画展と合わせ、公開シンポジウムへのご来場を心よりお待ちしております。

<タイム・テーブル>

11:15 - 13:15：ギャラリーガイド（図書館展示室）

13:30 - 17:00：シンポジウム（東館 6F G-SEC Lab）

- (1) モノに響く声：山口徹（慶應義塾大学文学部民族学考古学専攻）
- (2) モノが導く対話：後藤文子（慶應義塾大学文学部美学美術史専攻）
- (3) 人類学の想像

司会：深山直子（東京経済大学コミュニケーション学部）

パネリスト：渡辺文（立命館大学政策科学部）

パネリスト：深田淳太郎（一橋大学社会科学部研究科）

- (4) ポリローグ「言い合って考える」

+ 佐藤孝雄・安藤広道・渡辺丈彦・江添誠
（慶應義塾大学民族学考古学専攻）

※シンポジウムの事前申し込みは不要ですが、
ギャラリーは一度に10名程度しか入れません。
お早目にお越しください。



<シンポジウム企画委員会>

山口徹（慶應大） 棚橋訓（お茶の水女子大）

深山直子（東経大） 下田健太郎（慶應大）

